

[ユニバーサルミュージック](#)から、邦楽、洋楽、ジャズ、クラシックの MQA-CD が発売された。CD でありながら、MQA 対応の機器で再生すると、ハイレゾの超高音質が楽しめるという。ロック&ポップス、ジャズ、クラシックに関しては安価なサンプラーも発売されたので、実際に音質を確かめた方も多いただろう。

インターネットでもおおむね好評である。音像がはっきりしており、たとえモノの録音であっても臨場感があること、圧倒的な迫力や微かな空気感も表現されていること、リッピングも可能で、CD とあまり変わらない容量しかないと挙げられる。これは MQA の信号が、人間の耳に聞きとれない領域にたたみ込まれているからである。すでに[e-onkyo](#)などでは、MQA のダウンロード販売も始まっているが、こちらは 24bit のファイルであるために、容量的には PCM 音源のハイレゾと大して変わらない。

MQA-CD を聴く方法としては、対応するディスクプレーヤーで再生するか、対応するソフトウェアと DAC を接続する以外に、携帯プレーヤーで聴くという方法がある。最も簡単なのはディスクプレーヤーで聴く方法だが、かなり高価なので一般のユーザーには手が届かない。対応するソフトウェアと DAC を組み合わせる方法は、専門的な知識が必要である。本来なら、携帯プレーヤーで聴く方法が、一般のユーザーにとって最も取っつきやすいはずである。リーズナブルな価格で最高級の音が楽しめるのだが、これまたテクニックが必要であり、リッピングの詳細な方法も公開されていない。そこで、MQA-CD を買いながら、MQA 対応の携帯プレーヤーで本来の音を聴くことができないユーザーのために、リッピングの方法を具体的に紹介することにする。

まず、MQA-CD をリッピングするには、特定のソフトウェアを使用する必要がある。リッピングにはフリーの[Exact Audio Copy](#)を用いる。Windows10 64bit 版でも動作が確認されている。ダウンロードしてインストールしたら、起動のチェックは外して日本語化する。詳しくは「[リッピングソフト Exact Audio Copy \(EAC\) のインストール&日本語化手順](#)」を参照するといいい。

ただ、Exact Audio Copy はそのままでは、wav などを生成するが、flac には対応していない。検索するためのタグを埋め込むことを考えると、flac の方が実用的である。それには Exact Audio Copy に、flac のエンコーダーを組み込む必要がある。それには「[Exact Audio Copy で CD から音楽を FLAC で取り込む方法](#)」を参照するといいい。

あとは、flac に可逆圧縮するときの設定だが、圧縮率は 5 にする。「追加のコマンドラインオプション」で -5 %source% のように打ち、Bit Rate は CD と同じ 1411kbps に設定する。トラックごとに、個々の flac ファイルとしてリッピングすること。

ただ、これだけだと、アルバムや曲の名前が書き込まれていないことがあり、パソコンや携帯プレーヤーで検索することができない。その場合には、[Mp3tag](#) を併用すればいい。flac をはじめとする多くの音声や、mp4、m4v などの動画にも対応している。使い方は mp3 などの場合と同じ。パソコン内のディレクトリ（フォルダ）を指定し、「タグを取得」し

て保存する。直観的に使いこなせると思われるが、詳しい使い方は[高機能かつ使いやすいタグエディタ！「Mp3tag」](#)のページを参照するといいい。ファイルができれば、拡張子を～.flac から～.mqa.flac に変更すること。これで、パイオニアの携帯プレーヤーなどでは、リッピングした MQA-CD のファイルを本来の高音質で楽しむことができる。

ところが、ソニーのウォークマンでは、この方法でリッピングしたファイルを転送しても、MQA ファイルとして認識されない。それはコーデックやサンプリング周波数のタグが、リッピングしたファイルには含まれていないためである。以下に述べる方法を取れば、MQA-CD からリッピングした曲は、ウォークマンでハイレゾとして分類され、最高級の音質で鑑賞できる。タグを打ち込むのは少々面倒であるが、やるだけの価値はある。

まず、タグを編集するソフトウェアが必要である。先述した Mp3tag を用いた方法が、比較的簡単である。アルバムのすべてのファイルを選択したら、右クリックし、「タグを編集」→☆「フィールドを追加」をクリックし、「フィールド」に ORIGINALSAMPLERATE、「値」に MQA-CD のサンプル周波数を入力する。ユニバーサルミュージックの CD の場合、アルバムの大半は 352800 である。ふたたび☆「フィールドを追加」をクリックし、「フィールド」に ENCODER、「値」に MQAEncoder と入力する。「OK」を押せば、タグを編集する作業は終わりである。成功していれば、ウォークマンでハイレゾとして認識されるはずである。

もし [foobar2000](#) を利用しているのであれば、それでもタグの編集はできるが、作業はちょっと複雑である。foobar2000 を起動したら、file → Add folder で、リッピングした MQA-CD のアルバムを選択する。アルバムのすべての曲を選択したら、Library → Configure → Preference Advanced → Display → Properties dialog → Standard fields をクリックし、<ORIGINALSAMPLERATE>=%ORIGINALSAMPLERATE%;<ENCODER>=%ENCODER% の記述があるかどうか確認し、ない場合には追加する。

次に、ふたたびアルバムのすべての曲を選択し、右クリックで Properties を開く。Tools をクリックした後、Add new field もクリックし、Field name に ORIGINALSAMPLERATE と打ち込む。このとき、不要なスペースが入らないように注意する。現れた ORIGINALSAMPLERATE の項目に、MQA-CD のサンプル周波数を打ち込む。ユニバーサルミュージックの CD なら、多くは 352800 である。

今と同じように、Tools をクリックした後、Add new field もクリックし、Field name に ENCODER と入力し、現れた ENCODER の項目には MQAEncoder と入力する。作業が終わったら、ウォークマンに転送してみよう。

MQA-CD は CD と余り変わらない容量で、352.8kHz/24bit の高音質を実現する。また、SACD とは異なり、リッピングが可能で、対応する携帯プレーヤーでも聴くことができるが、普及させるためにはいくつかの壁がある。

MQA-CD を再生させるディスクプレーヤーは非常に高価であること。また、ソフトウェアでのデコードでは、96kHz/24bit までしか展開されず、MQA 対応の DAC をパソコンに接続しなければフル展開されない。

MQA 対応の携帯プレーヤーで聴くには、上記のようなリッピングやタグの編集が必要

である。こうした作業をこなせるユーザーは限られる。現状のままでは、MQA-CD は素晴らしい音質を誇りながら、かつての HDCD のように廃れてしまう恐れがある。

この壁を打破する方法としては、MQA-CD の発売元であるユニバーサルミュージックが、ホームページでリッピングの方法、特にソニーのウォークマンで聴くための詳細な方法を、ホームページで紹介することである。さらに、MQA-CD をリッピングして拡張子に `mqa` の文字を追加し、ORIGINALSAMPLERATE や ENCODER の情報も自動で打ち込むソフトウェアが開発されることが望ましい。また、ソニーのウォークマンも、拡張子に `mqa` の文字を追加するだけで、リッピングしたファイルが MQA として認識されるように、アップデートがなされることが待ち望まれる。(2018/08/09)

## 追記

ユニバーサルミュージックのホームページに、「[MQA として認識させるアプリ](#)」が紹介された。このアプリを使用すると、リッピングしたファイルにタグを書き込んだり、拡張子を `~.flac` から `~.mqa.flac` に手動で変更する必要もなくなり、すべて自動で処理してもらえる。開発元の MQA のページから、[MQA Tag Renaming Application](#) をダウンロードする。現状では Windows 版しかない。仕組みについては [MQA CD Ripping\\_ja-jp.pdf](#) に説明されているので、作業の前に読んでおくこと。

リッピングには `flac` 形式で可逆圧縮できるソフトウェアを使用する。ソニーの [Music Center for PC](#) が推奨されている。リッピングが終わったら、ファイルをフォルダごと、起動した [MQA Tag Renaming Application](#) にドラッグする。元のフォルダの下に MQA というサブフォルダが作られ、中にタグが付加されたファイルができています。

これを使用している携帯音楽プレーヤーに転送する。なお、ソニーのウォークマンを使用している場合は、最初にリッピングしたフォルダを削除し、MQA というサブフォルダを、改めて登録してから転送する。タグを自動で書き込んでくれるアプリが登場したことは、タグの書き込みなどの作業が苦手な人には、大きな助けとなるだろう。これによって、MQA-CD の音質の素晴らしさ、澄み切った異次元の音に、より多くの人が触れられるようになった。(2018/09/06)